

# Recognition Standard

認 定 基 準

～ Diver ～



2022年5月改定版



# スノーケル指導基準

## a. 指導資格

JEFF スノーケル指導員以上の資格を持つ者

## b. 制限人数

指導員 1 名について同時参加者 8 名まで(ただし参加者が浮力体を付けていることとする)  
アシスタント(補助者 JEFF MD 以上)同行の時は 10 名まで  
※補助者とはレスキュー資格以上を持つ者とする

## c. 受講年齢

10 歳以上 (18 歳未満は全て親の同意が必要)  
(ただし現場において父兄の同意があり、また受講する本人が器材を使用出来る十分な体力を有し、且つその器材が本人の体に合ったものであり、また危険について十分理解出来る者であれば、年齢制限未満でも受講することが出来る。)

## d. スノーケル実技提供に伴う指導内容

1. 陸域において、参加者名簿について必要事項を記入する  
伴うリスクについて説明を理解する
2. 健康状態についてのチェックを行い、理解する
3. スノーケル提供場所での注意事項説明を理解する
4. 使用機材の説明と使用法  
マスク、スノーケル、フィン(ブーツ)、浮力体、ウエットスーツ、移動浮力板
5. エントリーの方法  
バディーシステム
6. 水面移動の方法  
泳法
7. 水面休憩  
移動浮力体の使用
8. 水中観察の方法  
スノーケルの位置
9. エキジットの方法  
立ち上がり方
10. 水面での動植物への対処  
クラゲなどによる刺されの対処
11. 緊急時の対処(足のツリなど)
12. 器材の片づけ
13. 体験記録ノートの記入

## e. 査定

前記の知識と技能についてコース中に色々な時点で査定し、安全委スノーケルが楽しめる認定者が判断した時に認定証が授与される。

査定は JEFF 認定スクールで直接行い、JEFF スノーケルインストラクター以上が行わなければなりません。

# 体験ダイビング指導基準

## a. 指導資格

JEFF ダイブマスター以上の資格を持つ者

## b. 特別注意事項

体験ダイビングの目的は、安全に楽しく受講生を水中世界に案内することにある。

1. 体験ダイビングでは、知識、スキルが参加者全て同等ではない点や、年齢層が幅広いなどがあることを考慮しスキル提供することが必要。
2. 水中ではすべての受講生が確実に目視できる範囲での行動が必要であり、受講生から目を離さないこととする。又、常に緊急時に必要な処置がとれる体制を取ることも必要。
3. 体験ダイビング中における指導員のカメラ持参は、一般名称のポケットカメラ(水中ハウジング含む)に一切のアクセサリを付けることなく、使用目的は受講生の記念的な画像を撮ることを主たる目的とし、指導員が受講生を視野に入らない状況で、他の画像(水中生物など)を撮ることは禁止する。
4. 他の指導コースと体験ダイビングの同時エントリー開催は認めない。

## c. 制限人数

1. 指導員 1 名について最大同時潜水 2 名(20m 以上の透明度においては 3 名とすることが出来る)
2. ダイブマスター管理下においても、最大同時潜水 2 名までとする。
3. 補佐がいるときは、最大同時潜水は 4 名とすることが出来る。補佐の資格はダイブマスター以上とする。

## c. 受講年齢

10 歳以上(18 歳未満は全て親の同意が必要)

(ただし現場において父兄の同意があり、また受講する本人が器材を使用出来る十分な体力を有し、且つその器材が本人の体に合ったものであり、また危険について十分理解出来る者であれば、年齢制限未満でも受講することが出来る。)

## d. 体験ダイビング実技提供に伴う指導内容

下記内容については、特性から実施場所において屋内屋外問わず、実施することが出来る。

1. 陸域において、参加者名簿について必要事項を記入する  
 伴うリスクについて説明、理解した署名を必要用紙に記入保存
2. 健康状態についてのチェック、理解した署名を必要用紙に記入保存
3. 水中における環境的、生理的、物理的に陸上との違いの理解とそれに伴う必要器材等の説明。
  - 1) 水圧……………肺の過膨張について、呼吸の仕方、耳抜き必要性
  - 2) 音……………音の伝わり方
  - 3) 光の屈折……………物の見え方、見える大きさ等
  - 4) マスククリアーの必要性と方法
  - 5) 耳ぬきの必要性と方法
  - 6) 水中サインの必要性と方法
  - 7) 使用する全ての器材の使用目的と使用目的の説明  
 講習内容の確認テストは、試験用紙もしくは口頭での確認を行う。
4. 実技の講習  
 プールもしくは限定水域(ボート等では、緊急時に対応できる海域とする)にて以下の練習を行う。

スキル練習方法について、陸上シュミレーションの場合、水面にてスキル確認を行うことを条件とする

1) 耳抜きの方法

(陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認)

2) マスククリアーの方法

(陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認)

3) 呼吸の方法

(陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認)

4) レギュレータークリアーの方法

(陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認)

5) レギュレーターリカバリーの方法

(陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認)

6) BC(BCD)の使用法

(陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認)

7) 総合した器材の使用法

講習内容の確認テストは、試験用紙もしくは口頭確認、目視での技術確認を行う。

5. 上記、各項目終了後、オープンウォーターにて講習を行う

6. 流れのまとめ

1) 受付…必要事項の記入、リスクの説明、健康状態の調査

2) 学科講習

3) 器材説明

4) その他現地においての必要事項説明

5) ディブリーフィング……体調の再確認

7. 体験ダイビングの水域設定について

安全確保を確実にできる水域とし、最大深度 10m 以内とする。

# ベーシックダイバー

(JEFFダイバー)

## a. 定義

安全な水域でダイブマスター以上と潜水出来るダイバー  
CMASダイバー認定資格は無し

## b. 参加資格

年齢制限はないが、受講する生徒が安全に関しての理論的な理解が出来、実技に関しても安全を優先することが自分自身で理解できる者であること

## c. 最低限のコース内容

指導するインストラクターが水中、陸上を問わず安全に関して指示することを、水中サインや陸上の行動で理解できること

〈知識〉

- ・高気圧障害(減圧症、エアエンボリズム、耳に関すること、スクイズ)について理解していること
- ・上記の高気圧障害を含めた圧力の変化について理解していること
- ・寒さの問題(ヒートロス、ハイポサーミア)について理解していること
- ・水中と陸上の環境の変化(透明度・透視度、光の屈折、色の消失、音の伝わり方、潮汐と海流)について具体的な事例から理解していること
- ・初歩的な手信号(ハンドシグナル)について理解していること
- ・その他の安全について指導するインストラクターの指示を理解出来ること

〈技能〉

- ・ダイビングに使用する器材の名称、使用法を理解出来ること
- ・水中で安全に呼吸が出来ること
- ・緊急時に想定される事項に対処できること
- ・指導するインストラクターも指示に従い水中陸上を問わず安全な行動が出来ること

## d. 査定

前記の知識と技能は、コース中に色々な時点で査定し、必要な規準に達したと見なされたとき認定証を授与する。ベーシックダイバーレベルの査定規準は次の通り

〈知識〉

1. 水圧による気体の変化を理解出来ること
2. 水中での体温の消耗と陸上での気温の変化を理解出来ること
3. 陸上と水中での物の見え方の違いを理解出来ること  
(透明度・透視度、光の屈折、色の消失)
4. 水面、水中での初歩的な手信号(ハンドシグナル)の必要性和使い方を理解出来ること
5. 陸上と水中での音の伝わり方の違いを理解出来ること
6. 潜水場所における有害動植物を理解出来ること

〈技能〉

1. タンク、レギュレーター、BC、マスク、フィン、ウェイトベルト、スノーケル、ウェットスーツやそのときの環境に合ったアクセサリーを装着出来る体力と体格を持ち合わせ、インストラクターの指示又は手助けを借りながら完全に装着出来ること
2. エントリー、エキジットが指導するインストラクターの指示、手助けを借りながら安全に行えること
3. オクトパスブリージング、水面での「助けて」のサイン、水面浮上後の水面浮力確保及びはぐれた時の対処の仕方が出来ること
4. 水中でマスククリアー、レギュレータークリアーが出来ること
5. 全てのダイビング器材を装着した状態で、指導するインストラクターの指示に従って安全に正しく使用出来ること

前記「知識」「技能」の概略にそって理解出来たかどうかは口頭又は筆記テストにより確認する。

**査定は JEFF 認定スクールで直接行い、JEFF ショップインストラクター以上が行わなければなりません。**

# JEFF オープンウォーターダイバー

## (CMAS 1 スターダイバー ☆)

### a. 定義

スクーバ器材すべてを水中、陸上において安全で正しい扱いができ、バディーとコンタクトをとりながら安全な潜水が出来ること

### b. 参加資格

15 才以上であること

### c. 最低限のコース内容

以下の基本を理解していること

〈知識〉

- ・圧力と体積の関係とそれらがダイバーと装備に与える影響
- ・体が生命維持に何を必要としているか、そして水中でのそれらの複合化
- ・コースで使われているスクーバダイビング装備の用途を理解し、正しい使い方
- ・セーフティダイビングのルールと、セルフレスキュー、そして初歩的なレスキュー方法
- ・減圧表の正しい使い方(個人で使用するダイビングコンピューターの正しい使い方)
- ・無減圧潜水の技術

〈技能〉

- ・オープンウォーターにおいて、3 点セット(スーツの着用は自由ですが、着用ない時はフローティングベストを着用すること)の使用でスノーケリングを安全に楽しめること
- ・スクーバダイビング装備の準備、手入れ、使い方、そして浮力の調整、水を飲むことなく呼吸の確保が十分出来ること
- ・全装備着用状態でフィンを効率良く使って泳げること
- ・すべての方向へのコントロールが出来ること
- ・エントリー、エキジットを環境に合った方法で安全に出来ること
- ・レスキューテクニックが出来ることと、基本的なバディーとのレスキューテクニックの知識があること
- ・ダイビンググループの一人として行動ができること
- ・インストラクターが口頭で指示、デモンストレーションをした事が理解行えること

### d. 査定

前記の知識と技術はコース中の色々な時点で査定され、必要な基準に達したとみなされた時に認定証が授与される。1 スターダイバーレベルの査定基準は次の通り。

〈知識〉

1. 圧力(大気圧、水圧、絶対圧)と浮力について理解出来ること
2. 圧力の変化により影響を受ける下記の内容について理解出来ること  
(体積の変化、密度の変化、気体の溶解、潜水時間と空気消費量)
3. 高気圧障害(減圧症、エアエンボリズム、耳に関する事、スクイズ)に対する障害、症状、予防法、対処法が理解出来ること
4. 減圧表の正しい使い方が理解出来ること
5. ダイビング使用する装備の名称、目的、選び方、正しい使い方が理解出来ること
6. 水中での体温の消耗と陸上での気温、の変化を理解出来ること
7. 陸上と水中での物の見え方の違いを理解出来ること(透明度・透視度・光の屈折、色の消失)
8. 陸上と水中での音の伝わり方の違いを理解出来ること
9. 海況(水の動き、潮汐、海流)について理解できること
10. 潜水場所における有害動物植物を理解出来ること



11. 初歩的なレスキュー方法を理解出来ること

12. ログブックの記入の仕方が理解できること

〈技能〉

1. フリースタイルで **25m** 以上泳げること

2. オープンウォーターにおいて、4点セットの使用状態でスノーケリングにて **100m** 以上水面移動し、スノーケルを自由に使いこなせること

3. 限定水域において、スキンドайビングでヘッドファースト等によって水圧のトラブルなく、水深 **2m** 以深に潜水出来ること

4. タンク、レギュレーター、BC、マスク、フィン、ウェイトベルト、スノーケル、コンディションに合ったダイビングスーツと他のアクセサリを準備し装着出来ること

5. ビーチ、ボート等の様々な状態の中でエントリー、エキジットを的確に行えること

【ビーチ】エントリー、エキジット

1) フィンを持ってエントリーし、水中にてバディー同士で装着する

2) 水際の安全な場所においてバディー同士で協力してフィンを装着し、支えあいながらエントリーする

【ボート】エントリー、エキジット

1) バックロールエントリー

2) ジャイアントストライドエントリー

6. 安全な水域(講習時には **3m** 以浅)における水面からのフィートファーストによる潜降方法、そして水面までの浮上が出来ること

7. 水面での浮力確保が出来ること

水面で停止した位置で前後左右に動かずにとどまれることマスク、レギュレーター装着の有無にかかわらず同様に行えること

8. 水深 **3m** 以浅で、マスクの取り外しによるマスククリアー(マスク脱着)、レギュレーターを一旦手から離し、再び取ってからレギュレータークリアー(レギュレーターリカバリー後に)が出来ること

9. バディー同士によるオクトパスブリージング。さらに、インストラクターと共にインストラクターのオクトパスを使い、水深 **5m** 以浅の水深からオクトパスブリージング浮上

水面浮上後はただちに浮力確保が出来ること

緊急スイミングアセントについても、安全確保から水深 **5m** 以浅は、自分のレギュレーターを咥えた状態で行う。

10. 反復潜水での減圧表の使い方を理解できること

(安全なダイビングコンピューターの使用法を理解する)

11. 水中での浮力調整が出来ること

12. セルフレスキュー(こむら返りの対処、パニック前兆の理解等)が出来ること

13. バディーレスキュー(空気切れでのオクトパスブリージング、窒素酔いの対処等)が出来ること

14. ハンドシグナルを理解し、正しく使用出来ること

15. バディーシステムを理解し、ダイビング中はバディーシステムを遵守出来ること

16. バディーやグループからはぐれた時に以下の対処が正しく出来ること

(水中での対処、水面まで浮上する対処、水面での対処)

前記「知識」「技能」の概略にそって理解出来たかどうかは口頭又は筆記テストにより確認します。

#### e. 活動範囲

インストラクター同行以外による資格取得後の潜水は、前回潜水した水深以内とする。

資格講習は **JEFF** 認定スクールで直接行ない、**JEFF** ショップインストラクター以上が行わなければなりません。

# JEFF アドバンスダイバー

## (CMAS 2 スターダイバー ☆☆)

### a. 定義

1 スターでの経験を積んだダイバーで、自分の責任を完全に理解し、バディーとのコンタクトも十分にとれるとみなされた者

### b. 参加資格

1. 15 才以上であること
2. 1 スターダイバーの認定後 20 回以上の潜水経験があり、その内インストラクター同行において、水深 10m～30m の潜水が 10 回以上あること

### c. 最低限のコース内容

以下の基本を理解していること

〈知識〉

- ・潜水医学と生理学、そして潜水に関連して起きる不調と病気、その影響について
- ・深い深度に潜る時の問題点、空気消費量の計算
- ・潜水場所の選び方と潜水計画の基礎
- ・水中ナビゲーションの知識
- ・ロープの使用法

〈技能〉

- ・マスク、フィン、スノーケルを適切に使えること
- ・フル装備で水面においてスノーケルを使わずに泳げること
- ・ファーストエイドの基礎テクニック
- ・中深度において潜水装備を十分に使いこなせること
- ・セルフレスキューとバディーレスキューのテクニックを経験していること。
- ・浮力調整器の使い方を熟知していること
- ・水中ナビゲーション技術
- ・ロープの使用法

### d. 査定

前記の知識と技術はコース中の色々な時点で査定され、必要な基準に達したとみなされた時に認定証が授与されます。

2 スターダイバーレベルの査定基準は次の通りです。

〈知識〉

1. 圧力の変化による気体の溶解が、体に与える影響及び障害、原因、症状、予防法、対処法
2. 圧力の変化による気体の密度変化が、体に与える影響及び障害、原因、症状、予防法、対処法
3. 深度による空気消費量の違いを理解できること
4. 無減圧限界と減圧停止について理解できること
5. 減圧表を正しく使い、無減圧限界内での安全な潜水計画に従って潜水出来ること
6. 浮上スピードと安全停止の重要性を理解出来ること
7. ナビゲーションの種類、方法の理解及び環境、海況に合わせた使い分けが出来ること
8. コンパスの各部名称及び使用法が理解できること
9. 状況に合わせたロープの使用法及び結び方の名称が理解出来ること
10. 他に 3 種類の JEFF スペシャルティコースを受講し、そのコースに合った知識レベルを習得すること

〈技能〉

1. 3点セット(スーツ着用は自由)使用状態で、スノーケリングにおいて 200m 以上泳げること
2. 3点セット(スーツ着用は自由)使用状態で、水深 2m に潜り、その水深において水平に 5m 泳ぎ、浮上出来ること
3. フル装備でスノーケルを使い、レギュレーター無しで水面を 200m 以上泳げること  
そして、スノーケル、レギュレーターなしで背泳ぎ又は横泳ぎで 100m泳げること
4. 7～10m の水深でマスククリアー、レギュレータークリアーが出来ること
5. 7～10m の水深でセルフレスキューとバディーレスキューのテクニックを経験すること  
そして水面でのバディーの曳行の補助が出来ること
6. FAと CPR の方法を理解出来ること
7. 空気切れのバディーに対して、オクトパスフリージングにより安全に水面までサポート出来ること
8. 浮力調整器のコントロールを向上させ、いかなる水深においても中性浮力がとれること
9. 水中でのナビゲーション能力を、ナチュラルナビゲーションとコンパスナビゲーションで実証すること
10. 水中でのロープの扱いと結び方が出来ること
11. ダイビングチームの一員として陸上での潜水準備の時、あるいは水中で、正しく安全に活動出来ること
12. 必修としてディープ、コンパスナビゲーションの他に 3 種類の JEFF スペシャルティークースを受講し、そのコースにあった技能レベルを習得すること

前記「知識」「技能」の概略にそって理解出来たかどうかは口頭又は筆記テストにより確認します。

**e. 活動範囲**

全ての水域で潜水が出来るダイバーです。

バディーは、その潜水認定ランクの者でも組むことが可能です。

**査定は JEFF 認定スクールで直接行ない、JEFF 2 スターインストラクター以上が行わなければなりません。**

# JEFFレスキューダイバー

## a. 定義

JEFFインストラクターが行なうレスキューダイバー講習において、所定の課程を修了し、その技術、知識を完全に習得したと認められた者。また、レスキューダイバー資格検定に合格した者には、講習、検定を行なったJEFFインストラクターの申請により、JEFF本部より認定証が発行される。資格更新については、消防や公的機関の救命講習参加、海域でのレスキュー知識、スキルを自分自身で継続してトレーニング行う。

## b. 参加資格

1. 16才以上であること
2. 署名した健康診断書を教習開始までに提出していること
3. 未成年者の場合は、保護者の署名、捺印した同意書を提出していること
4. アドバンス(2スターダイバー)認定後、30回以上の潜水経験があり、その内インストラクター同行において、水深10～30mの潜水が15回以上あること
5. 水泳能力 自由形100mのうちクロールで50m以上泳げること
6. 潜水経験がログブックで証明できること
7. 水中レスキュー講習参加の前条件は学科の受講が必要

## c. 講習時間数

〈学科〉

- ・JEFFレスキューマニュアルに従いFA・CPR講習においては、3時間以上かけて行なうこと
- ・FA・CPR講習には、酸素供給方法、AEDの使用方法が含まれる
- ・潜水障害、ダイビングとストレスに関する学科は、JEFFマニュアルにおいて1時間以上行うこと  
(ただし、参加人数、受講生の習得レベルによって時間の短縮は可能である)

〈実技〉

- ・JEFFレスキューマニュアルに従い4時間以上行なうこと
- ・フル装備で水面においてスノーケルを使わずに泳げること

〈合計〉

- ・8時間以上行なうこと
- ・全過程を2日以上かけて行なうこと

## d. 講習内容

〈学科・実技〉

- ・JEFFレスキューマニュアルによって行なわれる

## e. 査定

緊急時に講習で学んだスキルを的確に判断し、現場において上級の資格の指示に従い緊急事態に対処できることが出来ること

## f. 開催及び査定資格

JEFF 2スターインストラクター以上

# JEFF プロレスキュー(スキン)ダイバー

## a. 定義

JEFF インストラクターが行うプロレスキュー(スキン)ダイバー講習において、所定の課程を修了し、その技術、知識を完全に習得したと認められた者に JEFF インストラクターの申請により、JEFF 本部より認定証が発行される。資格の有効期限は 2 年間とする。資格更新は、JEFF 2 スターインストラクター以上含む 2 名以上にて JEFF レスキューマニュアルに従って学科 2 時間、実技 3 時間以上を行い、互いに本部が規定する資格更新書に参加者のサインをもらい本部に提出するものとする。又は、JEFF が認める団体、組織にて所定の講習を受けた証明を提出する。

プロスキンダイバーについては、スノーケルインストラクター以上のスキルチェックとする。

学科においては、必ず酸素、AED を含めた CPR 練習をレサシアン使用により行うものとする。

## b. 参加資格

1. 16 才以上であること
2. 署名した健康診断書を教習開始までに提出していること
3. 未成年者の場合は、保護者の署名、捺印した同意書を提出していること
4. アドバンス(2 スターダイバー)認定後、30 回以上の潜水経験があり、その内インストラクター同行において、水深 10～30m の潜水が 15 回以上あること
5. 水泳能力 クロールで 200m 以上泳げること
6. 潜水経験がログブックで証明できること
7. 水中レスキュー講習参加の前条件は学科の受講が必要

## c. 講習時間数

〈学科〉

- ・JEFF レスキューマニュアルに従い FA・CPR 講習においては、4 時間以上かけて行なうこと
- ・潜水障害、ダイビングとストレスに関する学科は、JEFF マニュアルにおいて 1 時間以上行なうこと  
(ただし、参加人数、受講生の習得レベルによって時間の短縮は可能である)

〈実技〉

- ・JEFF レスキューマニュアルに従い 6 時間以上行なうこと

〈合計〉

- ・11 時間以上行なうこと
- ・全過程を 2 日以上かけて行なうこと

## d. 講習内容

〈学科・実技〉

- ・JEFF レスキューマニュアルによって行われる

## e. 査定

プロレスキューの査定は、緊急時に的確に対応できる能力を査定します。

緊急時の対応を全て受講者自身で的確に判断し、スキルが行えることと、周りにいる人(ダイバー)に的確な指示を与えられる能力を査定します。

## f. 開催及び査定資格

JEFF 2 スターインストラクター以上

プロスキンダイバー資格はスクーパーを使用した状況設定を外し指導することとする。

## 酸素プロバイダー (DAN等の外部資格)

### a. 定義

JEFF インストラクターが行う酸素プロバイダー講習は、JEFF においては、オープンウォーターダイバー資格取得後、希望者に CPR 講習と合わせて提供される。

JEFF では、2018 年に酸素の使用が緊急時に使用可能となったことから、JEFF レスキュー資格の中で、AED と合わせて提供講習を行っている。

JEFF が認める外部団体の規定によっても資格認定される。

この資格認定は、JEFF インストラクター外部資格保持者指導員によって開催される。

資格の有効期限は外部資格の規定に準ずるものとする。

# ナイトロックスマイバ

## a. 定義

JEFF ナイトロックスマイバクター(2 スタースマイバクター認定時に同時講習を受講したものを含む)が行うナイトロックスマイバ講習において所定の講習を修了し、その技術・知識を完全に認められた者。また、ナイトロックスマイバクター資格検定に合格した者には、講習、検定を行なった JEFF ナイトロックスマイバクターの申請により、JEFF 本部より認定証が発行される。

## b. 参加資格

1. オープンウォーターの講習を修了している者

## c. 教習時間数

〈学科〉

- ・2 時間以上かけて行うこと

〈実技〉

- ・ナイトロックスマイバタンクを使用し 1 本以上の経験を行うこと

## d. 教習内容

〈学科〉

1. ナイトロックスマイバの基礎知識
2. ナイトロックスマイバにおける物理障害
3. ナイトロックスマイバにおける生理障害
4. ナイトロックスマイバのダイブテーブル
5. 呼吸ガス酸素分圧と暴露時間
6. ナイトロックスマイバダイビングガスの選択方法
7. UPTD(肺酸素毒性量)
8. ナイトロックスマイバダイビング用混合ガス製造、分析、器材

〈実技〉

水深を完全にコントロール

潜水前にナイトロックスマイバガスの分析の方法

## e. 認定の基準

ナイトロックスマイバダイビングの知識を理解し、安全に潜水できるものとする。

## f. 査定

ナイトロックスマイバにおける知識の確認を口述もしくは、筆記試験により行う。

水中では完全に水深のコントロールが行えることを確認する。

## g. 開催及び査定資格

JEFF ナイトロックスマイバクター以上 (2 スタースマイバクター認定時に資格認定講習を受講したものを含む)

# JEFF マスターダイバー

## (CMAS 3 スターダイバー ☆☆☆)

### a. 定義

経験、トレーニング共に十分に積んだ責任の持てるダイバーで、オープンウォーターにおいての全てのダイバーランクをリード(先導)、潜水計画ができるアマチュアの最高峰資格と位置付ける。

### b. 参加資格

1. 16 才以上であること
2. 2 スターダイバー認定後、最低 50 回以上の 10m～30m 深度の潜水経験があり、その内インストラクター同行において、水深 30m 以深の潜水が 20 回以上あること
3. レスキューダイバーの認定を受けていること

### c. 最低限のコース内容

以下の基本を理解していること

〈知識〉

- ・マスターダイバーの役割
- ・潜水医学と生理学、そして潜水に関連して起きる不調と病気、影響、そしてそれらの処理方法について
- ・ファーストエイドの蘇生テクニック、及び水中でのトラブル対処法
- ・潜水場所の選び方と潜水計画の基礎、そしてダイバーの査定とその選出の方法
- ・コンプレッサーの構造と操作方法について
- 水中の動植物について
- 環境の変化における危険性の知識
- ダイバーの法的責任について
- ダイビングボートについて

〈技能〉

- ・ダイビングスキルの確認(各ランクの基準を理解する)
- ・ブリーフィングとディブブリーフィング
- ・レスキュー技術
- ・スポーツダイビング装備をいかなる水深においても十分に使いこなせること
- ・ボートや陸上からのダイビング活動に対しクラスコントロールが十分に出来ること
- ・10m～30m の水深におけるセルフレスキューとバディーレスキューのテクニックをマスターしており、その手当てと処置が十分に行えること
- ・水中ナビゲーションの確実な実技
- ・コンプレッサーの操作の補助
- ダイビングボートについて

### d. 査定

前記の知識と技術はコース中の色々な時点で査定され、必要な基準に達したとみなされた時に認定証が授与される。

〈知識〉

1. マスターダイバーとしての役割を理解していること
  - ・ プロフェッショナルとアマチュア
  - ・ インストラクターのアシスト



- ・ ダイビングに必要な器材の重要性の認識
  - ・ 危険予知と対処法
  - ・ 緊急時の対策
  - ・ クラスコントロール
2. 圧力の変化による気体の体積の変化が、ダイバーに与える影響について理解、説明できること
  3. 圧力の変化による気体の溶解が、体に与える影響及び障害、症状、予防法、対処法について理解、説明出来ること
  4. 圧力の変化による気体の密度変化が、体に与える影響及び障害、症状、予防法、対処法について理解、説明出来ること
  5. ガスの法則について理解、説明出来ること
  6. FAとCPRが出来ること
  7. 水中でのトラブルに対する対処法が出来ること
  8. 潜水場所、海況、ダイバーの人数、レベル、安全管理を考慮して潜水計画の立案が出来ること
  9. コンプレッサーの構造と操作方法(起動の仕方、空気の充填)を理解していること
  10. 潜水場所における動植物の名称、有害動植物の名称とそれらによる障害の症状、対処法及び傷害からの予防法が理解出来ること。
  11. 気象、海況の変化がダイバーに及ぼす危険性について理解出来ること
  12. リスクマネジメントについて理解出来ること
  13. 非常事態における行動を理解出来ること
  14. ダイビングボートの種類、名称、装備などを理解すること

〈技能〉

1. 全てのダイバーランクの手本となるようなスキルが出来ること
2. 簡単に分かりやすいブリーフィング、ディブリーフィングが出来ること
3. 状況に応じたレスキュー技術が確実にに行えること
4. 3点セット使用状態でスノーケリングにおいて100m泳ぎ、続いて3mのサーフェイスダイブにより水中の物体をリカバリー出来ること
5. フル装備で水面をスノーケルを使って400m以上泳げること
6. 可能な限り、様々なシチュエーションのダイビングを経験すること
7. 簡潔で分かりやすいブリーフィング、ディブリーフィングが出来ること
8. 10m～30mの水深でセルフレスキューとバディーレスキューのテクニックが出来ること
9. コンプレッサーの構造と操作方法(起動の仕方、空気の充填)を理解していること
10. 潜水場所における動植物の名称、有害動植物の名称とそれらによる障害の症状、対処法及び傷害からの予防法が理解出来ること
11. 気象、海況の変化がダイバーに及ぼす危険性について理解出来ること
12. リスクマネジメントについて理解出来ること
13. 非常事態における行動を理解出来ること
14. ダイビングボートの種類、名称、装備などを理解すること

〈技能〉

1. 全てのダイバーランクの手本となるようなスキルが出来ること
2. 簡単で分かりやすいブリーフィング、ディブリーフィングが出来ること
3. 状況に応じたレスキュー技術が確実に出来ること
4. 3点セット使用状態でスノーケリングにおいて100m泳ぎ、続いて3mのサーフェイスダイブにより水中の物体をリカバリー出来ること
5. フル装備で水面をスノーケルを使って400m以上泳げること
6. 可能な限り、様々なシチュエーションのダイビングを経験すること
7. 簡潔で分かりやすいブリーフィング、ディブリーフィングが出来ること
8. 10m～30mの水深でセルフレスキューとバディレスキューのテクニックが出来ること
9. グループをダイブプランとルートに沿い先導、コントロール出来、どんな深さからでも安全に水面に戻せること
10. 潜水場所を選ぶにあたり、海図と潮位表を使えること。
11. ナチュラルナビゲーションとコンパスナビゲーションの方法を完全に理解し、実証出来ること
12. コンプレッサーの構造を理解した上での操作の補助が出来ること
13. ダイビングサポートを使用する際の準備、非常事態での行動の補助が出来ること
14. リーダーシップマニュアルに規定される基礎体力基準に到達していること

前記「知識」「技能」の概略にそって理解出来たかどうかは口頭又は筆記テストにより確認します。

**e. 活動範囲**

全てのダイバーランクの潜水計画を行うことが出来る。

**査定は JEFF 認定スクールで直接行ない、JEFF 2 スターインストラクター以上が行わなければなりません。**

MEMO